

新元号のもと、光り輝く秩父市創造

平成31年度 施政方針



平成31年2月25日に開会した市議会3月定例会の冒頭において、久喜邦康市長から平成31年度の市政経営に対する、基本的な考え方である施政方針を表明しました。この施政方針の概要を抜粋してお伝えします。

福祉と健康

市民の皆さんが生涯健康でいられるよう、食事と運動への関心を高め、**健康寿命の県内トップ**を目指します。そのために、特定健診やがん検診等の**受診率向上**、食事への関心を高める施策、食育の推進を行います。運動面では、第34回日本ベタタンク選手権大会開催のほか、身近に運動ができる環境を整備します。また、**秩父ポテくまくん健康体操**や**ちちぶお茶のみ体操**の推進、**秩父市版健康マイレージ事業**をさらに充実させます。

地域包括ケアシステムの推進として、シルバー世代を対象に、医療・介護、健康面の不安等を気軽に相談できる**よろず相談所**的な仕組みの構築の研究を進め、高齢者の社会参加を促進させる**アクティブシニア社会参加支援事業**も引き続き実施します。

障がい者福祉事業として、あいサポート運動の推進、手話講座等の充実・啓発活動を行います。

人口減少への対応

秩父市版ネウボラを引き続き推進し、妊娠前から子育て期まで切れ目のない支援を行うほか、定住自立圏事業**はつとハグくむ：ママサロン**との連携も進めます。

また、吉田保育所と吉田幼稚園の**幼保連携型認定こども園**への移行に備えて工事を行います。

学校教育では、英語教育の充実を図るほか、ICT（※1）機器を授業へ活用し、児童生徒の学習意欲を高めます。また、学童保育室とふれあい学校の一体化により、学童保育の充実を図ります。

今年度から、**若者移住者向け就職奨励金制度**を開始し、秩父地域外からの若者の転入を支援し、市内企業等の人材確保と移住・定住促進を図ります。さらに、**移住就業等支援金交付事業**として、国の交付金を活用し東京23区在住・在勤者の移住も支援します。**秩父に住んで働こう！**を合言葉に関係機関と連携し、雇用確保に努めます。

前進させたい3大事業

●インフラの整備

旧秩父セメント第一工場跡地等の市道や上下水道の整備を進め、企業誘致を加速させます。また、（仮称）長尾根トンネルの早期実現を国・県へ引き続き要望します。

●秩父新電力会社の推進

公共施設への電力供給を開始し、環境に配慮したまちづくりの実現と地域経済の活性化を図ります。

●森林環境譲与税で林業再興

民有人工林の集約化や森林整備に取り組み、自伐型林業者の育成に努めます。また、荒川下流域の自治体へ秩父産木材の利用促進と森林整備への支援を働きかけます。

平成31年度重点事業

①CCRC他

都市部の方が、居住地と秩父に生活拠点を置く**二地域居住**を推進します。二地域居住が可能な住宅として整備した井ノ尻住宅を活用し秩父地域の活性化と市への本格移住へつなげるよう取り組みます。

●花の木プロジェクトとして、市

が整備した地域開放型交流拠点施設が完成しました。また、公募により選定された連携事業者が建設するサービス付き高齢者向け住宅（サ高住、※2）が今秋完成する予定ですので、移住後の生活が充実するようサポートを行います。

②災害対応他

新しい防災行政無線は、全国瞬時警報システム（Jアラート）とも連動しています。これを有効活用し、皆さんに迅速かつ的確な防災・災害情報をお届けします。また、町会等で作成する避難計画や防災計画の策定を支援します。

危険ブロック塀対策として、道路に面した危険ブロック塀等の撤去・改修工事の助成を、**住宅リフォーム資金・危険ブロック塀工事費助成金**として実施します。

今年度は、セーフコミュニティ再認証に向けた事前審査が予定されています。市民参加型の活動に重点的に取り組み、再認証取得を目指します。

③FM（ファシリティマネジメント）と外郭団体の財政健全化

公共施設ごとの具体的な方針を定める**個別施設設計画**の策定を進めます。また、市有財産の適正な管理と未利用地の売却により、財政の健全化を図ります。未利用の施設は、年度ごとに計画的に解体を進めます。旧秩父東高校の校舎等も、今後の解体に向け、設計およびアスベスト調査を行います。

昨年合併した、ちちぶ観光機構・龍勢の町よしだ・源流郷おたきの社員間の連携を強化し、経営の健全化を進めます。地場産センターについても経営の安定化を図るため、改善策を検討します。

※1 ICT…情報通信技術

※2 サ高住…安心して暮らせる「見守りサービス」等がついた中高年齢者向け賃貸住宅

④ 定住自立圏公共交通利用促進免 許返納事業

高齢者の運転免許証返納を促進するため、バス・鉄道・タクシー利用券を支給するほか、公共交通の利用を促進する事業を継続し、免許の返納後もマイカー無しで暮らせるシステム作りを進めます。

⑤ 子どもの貧困対策の充実

子どもの健全な育成のために、多世代サロンや子ども食堂の活動に対する助成を行います。

また、全ての子どもが平等に成長できるように、子どもの居場所を拠点に、各種相談や支援サービスにつなげる子どものちび包括ケアシステムの構築を目指します。

児童虐待、DV、家庭児童相談の対応は、民生児童委員、児童相談所、警察や学校等との連携を図り、迅速・適正に対応します。

⑥ 二次救急医療体制の維持と産科医療の充実支援

ちちぶ医療協議会を中心に、二次救急輪番病院・秩父郡市医師会・秩父郡市薬剤師会と連携し、救急医療を支援します。

なお、次年度から二次救急輪番病院3病院のうち1病院が、土曜の夜間と日曜の昼間・夜間を辞退したいとの意向を示しており、秩父地域の救急医療体制の厳しさが増えています。市民の生命・健康を守るために、関係機関と協力し対応します。

また、秩父圏域外の高度医療機関との連携を強化し、秩父地域の救急医療体制を向上させます。

秩父地域でお産ができる医療機関は1診療所です。唯一の診療所を支援するため、県と連携して大学病院等から産科医師の応援派遣をいただき、市からは助産師を派遣しています。

今後、県とともに産科医療への協力や財政支援等を継続し、里帰り出産も積極的に受け入れる体制を維持します。

⑦ 都市計画マスタープランの策定

まちづくりの基本となる都市計画マスタープランおよび立地適正化計画の策定を進めます。

羊山公園、秩父ミュージズパークスポーツの森、ちちぶキッズパークなどの公園の魅力アップ、民間活力による利用促進を図り、安全・安心な運営に取り組みます。

⑧ 起業促進

秩父ビジネスプラザに、秩父おもてなしTVに加え、チャレンジショップ、コワーキングスペースとサテライトオフィスを開設し、新たなビジネス創出の場として活用します。

先端産業の誘致育成として、ドローンによるまちづくりを進めます。産業用ドローンを導入し、GPS地図情報との連動で災害時や、道路・農林管理などの効果的な活用を研究します。

⑨ 誘客促進

ラグビーワールドカップ2019や来年の東京オリンピック・パラリンピックを好機ととらえ、外国人観光客の誘客を図ります。

滝沢サイクルパークBMXコースに、国内初の国際基準の高さ8mのスタートヒルを増設します。

文化財の保護と活用として中町屋台の彫刻の修理と下郷屋台の見付柱・曳綱復元新調工事を行います。また、新秩父市誌を編さんします。

⑩ 吉田・大滝・荒川地区を元気に

吉田のフルーツ、大滝のジビエや山菜、荒川のそばなど、それぞれの強みを生かしながら、食の秩父ブランドの推進を図ります。

吉田地区では、国指定重要無形民俗文化財・秩父吉田の龍勢の保護・保存を図り、安全対策・交通対策等の費用を助成します。

大滝地区では、大滝特産品販売センターの改修工事の実施設計を行います。改修後は特産品販売のほか、コンビニエンスストアを整備する方向で進めます。

荒川地区では、民間企業による秩父ジオグラビティパークが整備され、荒川渓谷の空中散歩を楽しめる吊り橋などのアクティビティが体験できる予定です。自然を生かした複合施設は日本初であり、市の活性化を期待し、施設の整備に市として協力します。

⑪ 安全安心快適な学校を目指して

秩父第一小学校校舎トイレ改修工事、尾田蒔中学校校舎大規模改造工事、秩父第一中学校の特別教室棟の教室人口引戸等の改修工事を行います。また、地震の際に倒壊の恐れがある小中学校13校のブロッコ塀の改修工事を行います。

高篠・荒川・吉田・大田中学校の普通教室へのエアコン設置工事を実施します。今回で小中学校の普通教室のエアコン設置率100%を達成します。

⑫ 農業の活性化

農業経営基盤強化促進法に基づく認定農業者等の担い手へ農地を集積し、農業経営の規模拡大・効率化を図るとともに、遊休農地の拡大防止に努めます。

⑬ 広域水道事業における「耐震基幹管路（Aルート）布設」

橋立浄水場から国道140号を大野原交差点まで至るAルート、中央通りを東京電力前まで至るBルートを整備し、安全でおいしい水の安定的供給を目指します。今年は、Aルートの影森地区から下流に向け、水道管の新設工事を進めます。水道法の改正により、全国的な水道事業広域化の促進等が定められ、秩父地域の広域水道事業は、先進事例として注目されています。水道広域化は、水道事業が初めて直面する人口減少社会への挑戦の始まりと捉えて対応していきます。